

# SETOUCHI ART BOOK FAIR

October 25-27, 2019  
Tamamo Park  
2-1 Tamamocho, Takamatsu City, Kagawa Prefecture



会期 | 2019年10月25日[金] 13:00~20:00  
26日[土] 10:00~20:00  
27日[日] 10:00~17:00  
会場 | 玉藻公園 披雲閣(香川県高松市玉藻町2-1)  
入場料 | 玉藻公園入園料:大人(16歳以上)200円、小人(6歳以上16歳未満)100円  
・芸術祭作品鑑賞パスポート提示で140円  
・10月25日[金]~26日[土] 17:30以降は公園無料開放  
披雲閣入場料:300円(SABF開催時のみ入場可)

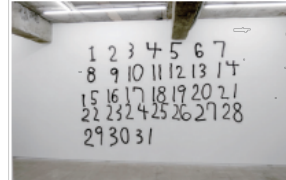
古くから瀬戸内は異国の文化芸術の交流地点であり、互いに評価し合える場所でした。時代は変わり、世界中のアーティストと美術関係者が3年に1度集まる、今最も注目を集める国際芸術祭で、かつてのような異国の文化芸術をアートブックを通して肌で感じられる場を作るために SETOUCHI ART BOOK FAIR を開催します。デジタルメディアが急速に普及している今、本は単なる情報を提供するものではなくになりました。その中でもアートブックは、直接手にとり、触れ合える「アート作品」であり、日常生活と融合する「パートナー」ともいえます。アジアを中心に選りすぐりの書店や出版者が瀬戸内に集まり、作品集や zine などを展示販売します。



## PICK UP! EVENT

### ライブイベント

**平山昌尚** [アーティスト・東京]  
1976年神戸生まれ、絵画、ドローイング、パフォーマンスなど東京を拠点に活動。  
\*詳細は決まり次第 SABF の SNS でお知らせします。

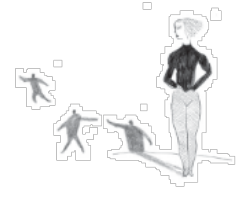


**shohei takasaki** [アーティスト・アメリカ]  
国内外で作品を発表するファインアーティスト。力強いラインと躍動的な色で純粋に感情を表現する。表現メディア、舞台は広く、その全てにおいて自身を強く表現している。  
\*詳細は決まり次第 SABF の SNS でお知らせします。



## トークイベント

**塩川いつみ** [イラストレーター・東京] × トーチプレス  
1980年長野県生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。広告、雑誌、プロダクトなどを中心に活動するほか、作品の展示発表も行う。主な仕事に CLASKA shop & gallery「DO」のオリジナル商品「SWAY」「MAMBO」、きものやまと「DOUBLEMAISON」のイラストレーションなどがある。2018年に宮沢賢治の詩「春と修羅」序」にドローイングを描き下ろした詩画集「春と修羅」を torch press より刊行。



## TALK EVENT TIMETABLE

10月25日[金]	
14:00-15:30	「世界の芸術家たちに会いにいこう」 Studio Journal Knock 西山勲(聞き手・濱田英明)
16:00-17:00	「DISTANT DRUMS」 濱田英明(聞き手・西山勲)
17:30-19:00	「台湾から見た日本 日本から見た台湾」 濱田英明×台湾 BIGISSUE
10月26日[土]	
11:00-12:00	「グラフィックノベルで読む世界の子どもたち」 モートン・デュア(ZENOBIA)
13:00-14:00	「The Reference Asia - アジア写真の新しい発見」 網野奈央(unit circle/torch press) × キム・ソヨン(unit circle / IANNBOOKS)
15:00-16:00	「文字を描く、考える」 平野甲賀
18:00-19:00	「旅 / 写真 / 表現」 石川直樹
10月27日[日]	
10:30-12:00	「果てしない音楽の話」 岡本仁
13:00-14:00	「いのくまさんの好きなもの」 岡本仁×古野華奈子(MIMOCA学芸員)
14:30-15:30	「絵のこと、本のこと」 塩川いつみ×トーチプレス(聞き手・網野奈央)
16:00-17:00	「はたらく あたらしい写真絵本シリーズをつくる」 吉田亮人×矢萩多聞

## FOOD & DRINK

**kamos** (ピザ・ドリンク)  
小豆島の土庄港で発酵をテーマに、ピザ屋をしています。2019年小豆島産の新詰みオリーブオイルを使ったピザも焼きます。小豆島産のクラフトビール・まめまめビールとご一緒に。



**旅ベーグル** (ベーグルサンド・ドリンク)  
香川県丸亀市、田園に囲まれた小屋で日々ベーグルを焼いています。SABFではベーグル、ベーグルサンド、あとは瀬戸内らしいドリンクをご用意いたします。



- ・fig (焼き菓子 ドリンク)
- ・しましまマフィン (マフィン、ドリンク)
- ・浪花堂餅店 (お餅 菓子)
- ・コルシカ珈琲 (コーヒー)
- ・ミヤモト惣菜店 (弁当 惣菜)
- ・茶日=SABI= (お茶)
- ・福繁商店 (クラフトビール)
- ・原田商店 (軽食)
- ・ウシオチョコラトル (チョコレートドリンク)
- ・まるみデザート (バインミーサンドイッチ)
- ・坂田焼菓子店 (焼き菓子)
- ・半空 (ドリンク、軽食)
- ・白川珈琲焙煎所 (コーヒー)
- ・カマ喜 (さぬきうどん)
- ・DELTA MARKET (フード、ドリンク)
- ・ポノポノ食堂 (フード、ドリンク)
- and more... !!

**玉藻公園 夜間無料開放及び 披雲閣庭園 ライトアップも同時期に開催!**

玉藻公園にて、披雲閣庭園中心に、幻想的な照明や行灯でライトアップを行います。また、五輪カラーに櫓をライトアップします。

日程 | 2019年10月12日・13日・19日、25~27日  
時間 | 午後17:30~21:00  
場所 | 史跡高松城跡 玉藻公園 入場料 | 無料

## Setouchi Triennale 2019

【会期】 ぶれあう春 | 4月26日[金]~5月26日[日] 31日間  
あつまる夏 | 7月19日[金]~8月25日[日] 38日間  
ひろがる秋 | 9月28日[土]~11月4日[月] 38日間

【作品鑑賞パスポート】 瀬戸内国際芸術祭2019の会期中、芸術祭の参加作品(施設)を鑑賞することが可能なチケットです。

3シーズンパスポート | 高松港専用駐車場が「無料」で「2回」利用いただけます。

一般	16~18歳	15歳以下
4,800円	3,000円 当日現地販売のみ(要身分証)	鑑賞無料

1シーズンパスポート | 高松港専用駐車場が「無料」で「1回」利用いただけます。

一般	16~18歳	15歳以下
4,000円	2,500円 当日現地販売のみ(要身分証)	鑑賞無料

\*16-18歳の割引購入は身分証の提示が必要です。販売は当日各案内所での販売のみとなります。  
\*有効期間中、芸術祭の参加作品(施設)を各1回鑑賞できます。  
\*地中美術館、豊島美術館へのパスポート提示による入館割引はありません。  
\*一部の作品や施設等において、別途鑑賞料等が必要となります。  
\*作品鑑賞パスポートによる鑑賞予約はできません。  
\*作品鑑賞パスポートには、各会場へのアクセスに要する費用(船代等)は含まれておりません。  
\*作品鑑賞パスポートによる高松港専用駐車場の利用は、芸術祭公式ショップとの割引利用のいずれかになります。

【イベントに関する問い合わせ】 SETOUCHI ART BOOK FAIR 実行委員会  
TEL | 090-1322-5834(SABFmakers 小笠原) MAIL | info@setouchiartbookfair.com  
https://www.setouchiartbookfair.com

【イベント情報は SABF の SNS で随時更新中!】

Instagram: @setouch.art.book.fair  
Twitter: @sabf\_sabf #SABF  
Facebook: @Setouchi Art Book Fair

【問い合わせ】 瀬戸内国際芸術祭実行委員会 TEL: 087-813-2244  
瀬戸内国際芸術祭公式ウェブサイト [setouchi-artfest.jp](http://setouchi-artfest.jp)



PICK UP!

フォトアーキペラゴせとうち+ 石川直樹

1977年東京生まれ。人類学、民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。「NEW DIMENSION」(赤々舎)、[POLAR] (リトルモア)により、日本写真協会新人賞、講談社出版文化賞。[CORONA] (青土社)により土門拳賞を受賞。2019年にかけて大規模な個展「この星の光の地図を写す」を国内6カ所の美術館で開催。

濱田英明

[フォトグラファー・東京] ADに「Studio Journ-I knock」の西山勲氏を迎え制作した私家版写真集「DISTANTDRUMS/遠い太鼓」を出版する。

Noritake

[イラストレーター・東京] 広告、ファッション、書籍、プロダクト制作などを中心に国内外で活動。シンプルなモノクロドローイングを軸に様々な企画に携わる。共著書に「秘密基地の作り方」(飛鳥新社)、「えいごのもと」(NHK出版)、「へいわとせんそう」(プロンス新社)などがある。また、集英社文庫「よまにゃ」イラスト、資生堂IHADAパッケージなどに携わる。SETOUCHI ART BOOK FAIRでは、これまでの制作した作品集やグッズを展開する。

Tara Books

[出版社・インド] Tara Booksは、1994年に Gita Wolfによって設立された出版社。

平野甲賀

[装幀家・グラフィックデザイナー・香川] 1938年生まれ。武蔵野美術学校デザイン科卒業。高島屋宣伝部を経てフリーとなる。1964年から晶文社の装丁を手がける。また演劇集団黒色テントの活動に長く携わる。73年「ワンダーランド」創刊。78年「水牛通信」「水牛楽団」参加。84年「講談社出版文化賞」ブックデザイン賞受賞。現在高松在住。ブックマルテ「マルテの学校」文字の勉強講師。



ear Meta Flop/Cauldron

Meta Flopは、オウホラモ州オウホラモシティに拠点を置く、アーティスト、デザイナー、学者の中西部のクリエイティブ集団。ヒップホップ、アンダーグラウンドコミック、スケートボード、多くの異なる文化やサブカルチャーの影響を受け制作している。

Jiaqi WANG

イギリスで写真集や版画を出展している。伝統的な作り方を再認識し、グラフィックデザインと現代アートとの関係を模索している。

The Fingersmith Letterpress

シンガポールに本拠を置く活版印刷スタジオ。2013年に設立され、創業者のジャッキーは、真鍮のスタジオでハイデルベルクの「クラウス」と呼ばれる風車を使って作品を作っている。

ONE HALF IN

中国の舟山市に拠点を置く、写真、独立系雑誌、アートブック、雑誌などの出版物を販売する書店。

Wyatt Conlon

ロサンゼルス在住の写真家。主に写真集やZINEを自費出版している。世界中のアートブックフェアに出展している。

WHOSMING

台北在住のアーティスト。最も象徴的なプロジェクトである#mingscupsは、持ち帰り用カップにイラストをスケッチし、旅行中に訪れたコーヒンショップを撮影しています。このシリーズはソーシャルメディアで人気を誇っています。

3 Cats Club & Hao Mao Studio

台北に拠点を置き、本物の猫の物語を、鉛筆のタッチだけで短いコミックを制作。現時点で、このシリーズは6巻を公開。旅行、食文化、イラストやコミックで日常生活を体験することに焦点を当てている。

Chang Yu Hsuan

台湾の高雄に拠点を置く26歳の写真家。写真は独学。幼稚園で園児たちにカメラの使い方を教えている。

Yuni Hong

韓国在住のイラストレーター、アートディレクター。世界中の旅行での体験を人々と共有するために、絵と短い言葉でイラストを描いている。

Ming sho Studio 唐明秀

人々が内部にある暗い側面どのように暮らすかについて考え、ダークサイドの面を視覚化したドローイング、プリント、ポスターを制作。ダークサイドとの付き合い方を人々と話し合いたい。

キルトボックス

東京での出版勤務を経て屋久島に移住。独立し、屋久島に出版社 Kilty BOOKS を設立。そんな私たちが創刊する新雑誌が「サウターマガジン」。旅や自然、暮らし、カルチャーを写真で見せる。

野口恵太

PLANKTONは「美しきもの」という意味。生命、生命力。これらこそ美しさが存在すると思う。無数の生命が集まったプランクトンは美しさそのものではないか。PLANKTONではあらゆる美しきものを探し、観察し、フィルムに収める。

ジュネル・チェ

シンガポール生まれ・横浜在住、イラストレーター・アーティスト。仕事は主に国内・海外大手企業や雑誌のイラスト・アートの仕事。コラボレーションプロジェクトなど。レトロな建築や看板が好きで、趣味は旅をしながトラベルzineや小物を作ること。

C7C gallery and shop

independent に特化した活動を主軸とした展示と販売を行っているギャラリー&ショップ。ギャラリーでは、アーティストの紹介、それに関連したトークイベントなどを開催している。最近では「写真展の開催からZINEを製作する」ワークショップにも力を入れている。

中野商店 出版部

東京・荻窪で活版印刷とリソグラフ印刷をメインの印刷機と使用しながら、デザインや出版の手伝いを行っている。最近では、リソグラフを使ってリトルプレスをつくりに来る作家さんが増えている。

noki

デザイナー・樺太鼓。裏・ほりひとみと共にデザインユニット「noki」を運営。2018年独立。デザインユニット「noki」立ち上げ。紙ものを主としつつ、Webデザイン、オリジナルプロダクト制作など多角的に活動している。

師岸英後

1980年代瀬戸内の街、広島県尾道。モノクロフィルムをメインに撮影した尾道の街と少女のポートレートでまとめた自作写真集「いつかの、少女」を展示販売。30年前に撮影した尾道の街と少女の写真は、どこか懐かしさと寂しさ、郷愁を感じる内容である。

森本美絵+金玖美

フォトグラファー。新作写真集を携えてSETOUCHI/ART BOOK FAIRに出展する。

PHOTO atlas

PHOTO atlas は写真家集団で2013年に発足しART BOOK FAIRやフォトイベントにも多数出展。ZINEやDummybook、リトルプレスなど写真を母体にした写真集を作り続けている。手製本のクオリティの高さや写真集のストーリー性、作風など楽しめるものがかりだ。

太田悠輝子

1994年生まれ。東京在住。イラストレーション、漫画など制作している。今回出展する新しいzineは、海、水辺、鉱物のスケッチを1冊にまとめたもの。普段見慣れた色の洪水の景色から離れることで、自然の生命と交換しあう喜び、すっぴんがかったことのようにしている事を思い出してもらいたい。

点点

点点(てんてん)は木村さくら(画家・漫画家)の出版物を中心に開店する。漫画本「ほくと先巻」2巻の初売りは。SETOUCHI ART BOOK FAIRだ。5月女木島 BOOK CAMP で皮切りとなった漫画シリーズ。漫画家自ら続編を持って、故郷・高松へ。

Polka rope

写真やドローイング、テキストを通じて、「わからないこと」に向き合い、表現する。フィクションと現実の間に立ち、「常に現実を揺さぶる表現を目指している」。

任意団体 風

高知県の山間の小さな町、土佐町が発信するウェブサイト「ときとよもものがたり」。田舎の小さな町だからこそ生かされている人と自然との関係、人と人との関係を元にもつくりをしている。ウェブサイトから派生した内容を、年に2冊のペースでZINEとして発行している。

mokaとKOTETSU

moka イラストレーター。wooly magazine、SPURなどにイラスト掲載他、NEUT magazineのイモリステッカーのデザインや、HIGH(er)marketな様々なイベントやpopupに参加している。/ KOTETSU マインドはいつだってギャル。僕の作品で一人でも多くの人が生きやすい社会を提案していきたい。

村上信理

1991年大阪生まれ。アーティスト、絵本作家。アクリル絵の具を手の平や指に付けて全身で描いたり、お名前ペンを駆使して線画を描くなど技法にとらわれない多彩なタッチが特徴。主な仕事：テレビ番組内使用イラスト、子どもたちのアートワークショップ、高島書店キャンペーンイラストなど。

RAYING Studio

台北在住のイラストレーター-KOH BODY が2017年に立ち上げた。イラストやグラフィックデザイナーの仕事と並行して、言葉の壁を超えて遊ぶZINE「KIDS200」シリーズを発表し、台北を中心にアートブックイベントに出展している。

株式会社青幻舎

「当代の芸術の存在感を顕す」をモットーに、京都と東京に拠点を置き、現代美術・写真をはじめ、さまざまなアートブックを刊行している出版社。最近では、文芸・児童書などにも刊行ジャンルの幅を広がり、独自の視点で当代の文化に光を照らす活動をしている。

中村麻由美

エディトリアルデザイナーを経て2011年より独立、造本デザイナーとして製本業を開始。主に特殊な装丁や極小サイズの本を対象に自身の手製本と量産向け機械を織り交せて造本をディレクションし、本を素材の側面からデザインしている。

かくたみほ / PHAT PHOTO BOOKS

写真家のかくたみほと、写真Webマガジン「PHAT PHOTO」の合同プース。かくたみほプースは、本人が写真集のほかカレンダーなどのグッズも販売。PHAT PHOTO プースでは、写真家のテラウチマサトの写真集やエッセイを中心に、塩原真澄などの若手作家の写真集を販売する。

knew as new

店名の「knew as new」の日本語訳は「新しさと知っていた」である。新しいと思っていた事は、いつの間にか過去の事となり既に新しくはないかもしれない。新しさを知る事、今を知る事、未知を知る事、それらを常に探求し続ける事である。

Yumi Kitagishi and Kie Pinoko

イラストレーターの北岸由美とKie Pinoko。共同制作で絵本やZINEなどを制作している。フリーランスのイラストレーターとして活動中の2人。主に絵を北岸由美、文章をKie Pinokoが製作し絵本やZINEを英語、日本語、韓国語にて製作・販売している。

樹条空

大学卒業後からコンテストに応募、また東京駅などに展示。写真は動植物、風景をメインに撮影。公園や河川敷、路地裏など様々なところを歩きまわりながら撮影をしている。

okuloidea

写真や本の物質感を通して、場所まつわる記憶や感情とイメージの関係性を表現するアートブックの制作をおこなっている。本やプリントと、制作の源となった古い本なども少し一緒に展示販売。

夕書房+スタジオ35分

芸術・人文系ひり出版社「夕書房」とギャラリー&バー「スタジオ35分」によるスペシャルユニット。「夕書房」は、茨城県つくば市から「これらの私たちのための本」をモットーに、さまざまな分野で切実な声をもつ、新たな視点をひらいてくれる方、挑戦を続ける方の本をお届けする。

矢野恵司

グラフィックデザイナー。1991年香川県東かがわ市生まれ。株式会社villageを経て、2019年より独立。香川・東京を拠点に活動。11/4まで高松市美術館にて開催される高松コンテンポラリーアート・ビジュアルvol.8「社会を解剖する」展の宣伝美術を担当している。

Herbie's bar

1973年にロンドンに渡り10年間を過ごす。パンクロックやニューウェーブのムーブメントに遭遇し、デビュー前のボーイ・ジョージとルームシェアをするなど、ロンドンの最もエキサイティングだった時代を体験する。そうした中で撮影された、生きたロンドンの写真が高く評価された。

小野田陽一

写真家。1982年神奈川県生まれ。泊昭雄氏のアシスタントを経て、2011年独立。広告や雑誌媒体の撮影しながら、自分の作品作りを行っている。主な作品「LURK IN THE GREEN」「SEE」「土と光」「解物画」。

サウダーズブックス

2007年に神奈川県県の葉山で生まれた出版レーベル。2018年、しばらくの充電期間を経て、再出発する。自然の声に耳を傾け、その教えをわかちあうことも、これからのテーマにしたい。

船の体育館

東京の代々木体育館の原型とも云われる、あの素晴らしい建築物をこの、今の時代を生きる大人として、これらを生きる子供たちにあの風景と空間を残してあげたい。

疾駆 / Yutaka Kikutake Gallery

「疾駆(jichu)は、私たちの時代の豊かさの意味を、きちんと考える場を作りたい」という思いから刊行している。衣食住を様々な角度から検証したり、掘り下げてみることで、既知のなかに未知の魅力を見つけ、暮らしに反映させてみることを試みている。

1.3h (イッテンサンジカン) / MOUTAKUSANDA!!! magazine

1.3h (イッテンサンジカン) は「(必)ずしも」旅に出ない旅行誌」をコンセプトとする雑誌「MOUTAKUSANDA!!! magazine」(モウタクサンダー・マガジン)や、写真集、アートブック、ZINEなどを刊行する出版レーベル/制作スタジオ。

yuk tamura

イラストレーター。京都生まれ。セツモードセミナー卒業。イラストやデザインの仕事をしながら、展示や出版を行う。今年の2月には台湾・台中にてグループ展を行った。7月は海の見える一箱古本市に参加。

MIKITAKAKO illustration

ロンドン、キングズ大学でイラストレーションを学んだ後に2015年よりフリーランスのイラストレーターとして活動開始。今回は旅、ファッション、子供のzineを販売。また、会期中ポर्टレート販売予定。詳しくはホームページへ。

NEWSEE

アートディレクションやウェディングのコーディネート、空間演出や展示などを手掛けるNEWSEEが編集者やアーティスト、イラストレーター、フォトグラファーなど様々なジャンルで活躍しているメンバーをセレクトしたプース。

宮川千明

アーティスト。半透明のモチーフを用いて「殻」をキーワードに作品を制作している。和紙を使用したインスタレーション展示や版画を使用した自家製本のZINEなど。今回予定している出版物はシルクスクリーン、リトグラフの技法を用いた自家製本のアーティストブック。

CHEERS

写真家・石川直樹が講師を務めるフォトアーキペラゴ写真学校生の作品をzineとして出版。

西武アキラ

マンガの仕組みや構造に着目し、絵画、アニメーション、タイポグラフィ等、ジャンルを横断した活動を展開。東京、大阪、京都、台北、ベルリンなどでグループ展やNANZUKAやondo、海外ではデンマークのSENKO STUDIOでの個展等をしている。

TISSUE PAPERS & foo CHOCOLATES

石田真澄・NONCHELEEE、熊谷直子などインディペンデントなアーティストの作品集を作り国内外で紹介する「TISSUE PAPERS」と、尾道で9人の女性たちが運営するヴィーガンチョコレートブランド「foo CHOCOLATES」の合同プース。

ルークス

ローカルエリアを中心に人々の営みや日常風景を写真に収め、世界のライフシーンを表現するビジュアルプロジェクトLUKETH「ルークス」を発足。旅の様子は誌面、個展等にて随時発表を予定している。

亜典藝術書店 Artland Book Co., Ltd

1989年に設立されたアートブック、ビジュアルブック専門店。頻繁にご利用いただいているお客様に感謝し、台湾のアートシーンをより一層盛り上げられるよう日々努力している。

中川正子

岡山県在住の写真家。日本と世界で写真を構ったり文章を書いたりしている。

BOOK TRUCK

公園や駅前、野外イベントなどの行く先々に合わせて、その都度品揃えや形態が変わる移動式本屋。ブルーグリーのトラックに新刊書、古書、洋書、リトルプレスなど約500冊を詰め込んで、関東を中心に様々な場所に出没中。

BOOK AND SONS

タイポグラフィを中心に、グラフィックデザイン関連本や写真集を扱う書店。

GRAF Publishers

写真家・本山周平・錦戸俊康・國領翔太の3名で刊行するフォトグラフ誌。年間4冊の刊行を目指し、写真家、批評家等、様々な分野のゲストを招き展開していく予定。

WOMB

「新しい視界と新しい感情を」2013年9月より写真誌「WOMB magazine」を発行している写真家グループ。「WOMB」という名前には、ものが生み出される(育つ)場、そしてまだ誰も知らないものへの入り口という意味を込めている。

合同会社 千十一編集室

インターネットやSNSの登場によって、メディアや出版をめぐる状況は大きく変わろうとしている。そんな時代に千十一編集室は、「異なるとコミュニティをつくる」「メディア」と「編集」の役割を捉え直し、地域(ローカル)をフィールドとし、新しい「つなぎ方」で様々なプロジェクトやメディア、出版物を生み出していく。

道音舎

道音舎は紀伊半島を拠点にする出版レーベル。文字や画、書籍の形態に向き合いながら、編集者とデザイナーがじっくり丁寧に本を編んでいる。

AKATSUKI PRESS

東京・中目黒の出版社「オークラ出版」が運営するアート&カルチャーに特化したブックレーベル。

赤々舎

2006年設立のアートブックの出版社。写真集と現代美術の作品集を中心にこれまで約200冊を刊行。新人のデビュー写真集も多く手がけ、木村伊兵衛写真賞の受賞者は7名を数える。

イワサトミキ

絵描き。双子の姉の方。香川県在住。イラスト、グラフィックデザイン、絵画、立休、アニメーション制作等で作品を発表する他、2010年各バンド「tonari session's (トナリセッションズ)」に加わり、鉄琴、トビピアノ、スチールパン、鍵盤(ハモニカ)、art worksを担当する等、ジャンルレスな活動をしている。

ウミタ

瀬戸内国際芸術祭2019の作品でもある「ウミタ」のWebサイトの撮影をしている写真家。泊昭雄さんの写真集「豊島の空気を」を販売。1年かけて豊島で撮影を行い、泊さんが見た四季の移ろいやアート、島民の日常、その日出会った空気が感じられる一冊。

Case Publishing

2015年に設立されたアート本を拠点とする出版社。「表現としての本」をマニフェストにおき、アートブックとしての新しい表現を追求。また、先人達が築いた技術を継承していく活動をしている。

塩川いつみ

イラストレーター。長野県生まれ。2006年多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。2007年よりフリーランスで活動をはじめ、現在は東京在住。

Studio Journal knock 西山勲

写真家・西山勲が世界各地の芸術家を訪ね、彼らの創作とともにある日常を綴る出版プロジェクト。2013年の創刊以来、タイ、カリフォルニア・ポर्टランド、南米・ヨロロバ、東欧・北アフリカを巡り、自身の手記と編集によりこれまで7タイトルが刊行されている。

shashasha

アジアの写真作品を世界中のオーディエンスに届けることを目的に2013年にスタート。荒木経惟、森山大道、北井一夫、北島敏三、浜口塔子等の希少写真集から、気鋭アーティストまで幅広い作家を取り揃えるポータルサイトとしての機能を備えている。

田部井美奈

アートディレクター・グラフィックデザイナー。1977年埼玉県生まれ。1999年武蔵野美術大学短期大学部卒業。1999-2003年E&Y、輸入カメラ「LOMO」販売代理店勤務。2003-2013年、有限会社服部一成に勤務。2014年田部井美奈デザイン設立。2019年ADC賞受賞「光と図形」告知ポスター・展示ポスター・作品集。

チョークボーイ

カフェのバイトで毎日黒板を描いていたら、みんな面白くなってきて気がついていたら仕事になってしまった。東京をベースに日本全国、黒板のあるところまで描きに行きました。黒板は黒板以外のものにもチョーク以外で描くようになりました。

torch press

東京を拠点としたインディペンデントのブックレーベル。2013年12月より出版物の制作をスタートした。主にアートブックや写真集を出版している。

NEUTRAL COLORS

インディペンデントな出版社。雑誌、絵本、ドキュメンタリー&小説、写真集を出版している。年に各1冊ずつ丁寧に、企画、編集、製作、印刷、製本、営業までを一貫して行う。

NEW ALTERNATIVE

ありのままの個性を尊重しあい、力強くオルタナティブに生きてゆく。時代特有の「概念」へ挑戦し続けるアーティスト。この場所ですしか出来ない事にこだわったアーティストキュレーションや展示を企画している。

HAND-WRITTEN SHOWCAS

「ハンドレタリングの流行をしっかりとカルチャーにまで押し上げた」という思いにより、有志のアーティスト達により発起された。今後は、日本国内での定期的な合同展示イベントに加え、海外でもイベント開催を計画していく。

HeHe

2013年夏より、東京を拠点に出版、編集、展示会の企画などをおこなっている。

平山昌尚

1976年神戸生まれ。絵画、ドローイング、パフォーマンスなど東京を拠点に活動。

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(愛称 MIMOCA/ミモカ)は、1991年、全国でも類を見ない「駅前美術館」として、丸亀市ゆかりの画家・猪熊弦一郎の全面的な協力のもと開館した。

矢萩多聞

画家・装丁家。Ambooks代表。1980年横浜生まれ。9歳のとき、はじめてネパールを訪れてから、毎年インド・ネパールを旅する。中学1年生で学校を辞め、ペンによる細密画を描き始める。

山口一郎

静岡出身。セツ・モードセミナー卒。画家。卒業後、イラストレーターとして雑誌広告の仕事始める。香川県在住。

ユトレヒト

2002年7月にオンラインショップを、同年11月には代官山にショップをオープンした。書籍の販売や流通に留まらず、インテリア・アパレルショップ等のブックセレクト、シェアオフィス等各種施設におけるライブラリーのディレクション、アートブックフェア「TOKYO ART BOOK FAIR」の共同開催など、さまざまな本にまつわる活動を行っている。

リブリアルテ

東京を拠点とする出版社。写真を中心とし、アート、デザイン、建築の書籍を出版している。

ArtOpie

台湾の中部にある台中を拠点とする。展示会レンタルスペースの運営と自費出版の本(ZINEなど)を出している。生活の中から面白い事を探し出し、本を作っている。

BANANAFISH BOOKS

出版社やアーティストの雑誌、アーティストの本、ジャーナル、詩、アートライティング、ユニークな雑誌のプラットフォームを提供する中国の若者にユニークなショップ、ジン、アーティストの本の出版社とソーシャルスペース。

BIG ISSUE 台湾

ロンドンから始まったホムムレス状態の方の仕事をつくり、自立を応援する雑誌。新聞のネドワークの台湾でもトップレベルで世界的にも注目されている新進気鋭のグラフィックデザイナーの蘇永真(アロシ・ニエ)氏が裏紙を手がけている。

IANNBOOKS

韓国のソウルの出版社。2007年の設立以来、芸術写真雑誌「IANN」や展示企画、コンサルティング、出版など様々なプロジェクトを手掛けている。

Jiazazhi

言由(Yanyou、ヤンヨウ)によって設立された中国の出版社。拠点は寧波。「Jiazazhi」は、日本語で「角雑誌」という漢字が当てはまる。出版事業のほか、写真集図書館やブックショップの運営も手がけている。

Johnnp

イラストレーター・グラフィックデザイナー。音楽が好きで、音楽や音をテーマにした作品が多数。華やかな、細かい中世ヨーロッパ風から、ミニマリストアートのような描き方で得意。DJやブランド専属カメラマンなどを担当した経験もある。

SHOHEI TAKASAKI

埼玉県出身のコンテンポラリー・アーティスト。ポर्टランド、ロサンゼルス、クエーツ、メルボルン、香港、東京など、様々な都市でペンディングを主体にショウを開催してきた。2019年夏、アメリカ・ポर्टランドから東京に拠点を移し、近年取り組んでいるテーマ「比較」を中心に、サイト・スペシフィックな作品を制作している。

緑光+marute

日本人によるキュレーション。運営を行う台湾のアートギャラリー。海外進出と文化交流を目的とし、日本人作家を中心に展示、イベント等を開催している。(順不同・敬称略)